

# 関東インカレ 部便り

## 目次

1. 関東インカレ 講評
  - 1.1 監督より
  - 1.2 主将・女子主将より
2. 関東インカレ 試合経過
3. 選手の言葉
4. 試合結果
5. 自己記録更新者一覧
6. 2017年度部内五傑
7. 2017年度東大記録更新者一覧
8. 主務より

## 1. 関東インカレ 講評

### 1.1 監督より

#### 監督・藤田靖浩

今年度の関東インカレは男子総合が19点で15位、女子は2名出場で一名準決勝と、予想されたことではあります。昨年からの戦力ダウンがそのまま現れた格好となりました。

しかしながら、一部昇格のプレッシャーが弱かったこともあるかもしれませんが、出場した選手を見れば、ランキングを上回る選手が多く、走幅跳や競歩など例年になく実力を発揮できた試合だったように思います。200メートルも昨年の優勝記録でギリギリ予選通過というハイレベルな状況で一年生を含め2名が21秒中盤というのは今後に繋がる結果でした。

そういった意味ではダウントレンドに陥ることなく昨年迄のよい流れを引き継ぐことができた試合であったと思いますので、七大戦、京大戦に向けこの勢いを活かして、結果を残していきたいと思います。

引き続きのご指導、応援を宜しくお願い致します。

### 1.2 主将・女子主将より

#### 主将・寶田雅治

代替わりしてから目標の舞台として掲げてきた関東インカレを終えました。結果は対校得点19点の15位でした。2位以内に入り、一部昇格することを目標として掲げていましたが遠く及ばない結果となってしまいました。

全体としてみると少々の取りこぼしはあるものの、ほとんどの選手が実力通り、または実力以上の力を発揮することができました。その上で今回の結果を考えると、単純に実力が伴っていなかったということ認めざるを得ません。ただ、個々の選手を見てみると、得点を取った大半の選手は3年生以下で、走幅跳で表彰台に乗った木下をはじめとして、東大新記録を出した近藤など、来年以降も関東インカレに出場できるチャンスがある選手が結果を残したことは来年以降の一部昇格に向けて大きな希望になるのではないかと思います。

一方で代替わりしてから残された戦力で、もともと力を持っていて得点を取れるだろうと予想された選手しか得点を取ることができず、陸上部全体として劇的に変わったということはいえませんが、七大戦、京大戦、さらに

は来年の関東インカレで結果を残していくためにも一部の強い選手だけでなく、部員全員が成長していくことが必要になります。陸上部として、結果が出始めるまで苦しいシーズンになるかもしれないですが、結果が出ることを信じて練習を積み重ねていきます。

最後に、一部昇格を掲げながら遠く及ばない結果となってしまい応援して下さったOB、OGの皆様には本当に申し訳ありません。この悔しさをバネにして、部員一同残りのシーズンを戦っていきたく思いますので御指導、御鞭撻の程、よろしくお願いたします。

### 女子主将・坪浦諒子

今大会、女子パートからは昨年と同様、800mに高石(3)、400mHに坪浦(4)の2名の出場でした。高石は今シーズン既に自己ベストを更新しており、関東インカレには決勝進出を目標に掲げておりました。予選では安定した力強さで順調に準決勝へと駒を進めましたが、残念ながら決勝進出を果たすことは出来ませんでした。この悔しさを、必ずや来年の関東インカレでは晴らし、更なる活躍をすることと期待しております。坪浦は昨年からの故障から復帰したで今シーズン初レースであり未知数ではありましたが、実力不足を痛感する結果となりました。ここをスタートラインと捉え、今後の対校戦では調子を上げていく所存です。

部として最も大きな目標として掲げる関東インカレ一部昇格には、女子選手が得点として関わることは出来ません。しかし、女子選手の活躍で東大に勢いをもたらすことは出来ると思っております。現在、標準切りが目前の選手から遠く及ばないと感じている選手まで幅広くありますが、全員が本気で出場を目指し関東インカレへの当事者意識をもって活動していきます。そして来年はより多くの女子部員も関東インカレに出場し、応援だけではなく選手として東大を引っ張って行けるよう、女子パート全員で実力をつけて参ります。

次の大きな対校戦としては七大戦を考えております。女子パートの目標に掲げております七大戦優勝には、各選手の飛躍が必須となります。少ない人数だからこそ、一人一人が一点でも多く得点しようという意識を持ち、目標達成のために女子部員一同全力を尽くします。今後変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願致します。

## 2. 関東インカレ 試合経過

◎トラック種目

5/25(木)

### 9:30 男子2部混成 100m

朝から降り続いた雨が止み、少し肌寒い中、十種競技の100m走に實田(4年)が出場。主将として関東インカレ一部昇格を掲げ、ここまで部を引っ張ってきたが、今度は部の中で最初に出場する選手として、ベストに迫る11"5台、またはそれ以上の好タイムを出し、ここから始まる自分の十種競技に加えて東大陸上部全体に勢いを出したいところである。

實田は2組2レーンでの出場となる。他の選手がセットの姿勢で静止をしなかったためスタートがやり直しになるが、集中力を保つことができ、仕切り直しのスタートでは素晴らしい反応でスタートする。スタートダッシュにも成功し始めの30mではトップとなった。しかし他の選手が後半にかけ伸びてくるのとは対照的に、横の選手が視界に入ってきて焦ってしまったのか、力んで動きが固くなってしまいそのまま失速してしまった。

結果は11"71(-0.9)で組4着。709点の獲得となった。記録はあまりよくはなく出遅れてしまったが、ここからの競技次第で十分に巻き返せるので、挽回を期待したい。

### 10:00 男子2部 1500m 予選

1組1レーンに妹背(4年)の出場。朝から断続的に小雨が降っていて涼しく、中長距離系にとっては走りやすいコンディションだった。

スタート後、妹背は100m過ぎで集団の最後尾となり、そのまま前に付いていく形で1周目を62"8で通過。2周目も集団は崩れることなく、妹背は集団に付いていって2周目を2'08"5で通過。内側のレーンを確保できていたことで、2周目通過時に2人ほど抜かしたがバックストレートで抜き返されて再び最後尾となる。集団は3周目も途中までは崩れなかったが、鐘が鳴って先頭がペースをあげると集団がばらつき始め、先頭集団との差が大きく広がった。妹背は立教の選手を抜かして、3'11"6で3周目を通過。最後のカーブで武蔵野学大の選手を抜かし、その前の流経大の選手との差も縮めるが、最後のホーム

ストレートで切り替えることができずに立教と武蔵野学大に抜き返され、4'00"07の15着でフィニッシュ。

予選通過はならず、関東インカレのレベルの高さを痛感する厳しい結果となった。

### **10:00 男子3部 1500m タイムレース決勝**

2組16レーンに福島(M1)の出場。男子3部に出場する選手は3人しかいないため、福島にとっては順位も重要だが、タイムとの戦いの側面が強く、昨年の同時期に出した彼の自己ベストである3'56"43にどこまで迫れるかがポイントとなる。

スタート直後は後方に待機し様子を伺う。400mの通過も63'と悪くはない立ち上がり。しかし、集団から徐々に遅れるようになると、800mを2'09で通過した段階では、半ばひとり旅の状態に。その後も思うようにペースは上がらず、1000mを2'46前後で通過すると、最後は力を振り絞るようにして4'09"19でゴールした。結局、3部全体としての順位も3位であった。

院生となった後も、時おり学部生に混じって練習に参加していたが、やはり学部生時代のベストには届かなかった。しかし、彼の走る姿は、タイムを抜きにして、今の東大陸上部員に感動を与えたい。

### **11:15 男子3部 100m タイムレース決勝**

気温が上昇し、走りやすい気温の中、100m走が始まった。3部に竹井(D2)と藤田(M1)が出場した。竹井は大会前に脚を痛めてしまい一週間ほど練習ができなかったが、なんとか10秒台を出してほしい。藤田は大会前の練習でも調子が良かったので、自己ベストに近い10"6秒台が期待される。

まず1組に竹井が出場。7レーンでの競技となる。反応はまずまずの良いスタートを切る。しかし顔が上がるのが早く、一次加速はうまくいわずに二次加速に入る。しかし直前で怪我をしてしまったためか二次加速でもそれほど伸びず、記録は11"25(-0.6)で組4着、全体では8位となった。そして2組に藤田が出場。5レーンでの競技となる。スタートの反応はやや遅いが一次加速でトップと並ぶ。ここから一気に抜き去りたいところだが、いつもの藤田とは違いここからあまり伸びてこない。結局

1位の選手を抜くことができず2着となる。記録は11"06(-1.8)で全体では5位となった。

兩人とも不本意な結果に終わってしまったが、大学院に入ってから練習を積めており、実力もあるので、次回に期待したい。

### **12:55 男子2部 110mH 予選**

2組2レーンに杉森(8年)の出場。今回は練習不足で準決勝に進出する見込みはない中での出場であった。アップで疲労してしまうというミスやスターティングブロックを使った練習をしっかりと積めていなかったことなどが重なり、良いコンディションでレースに臨むことはできなかった。

レースの内容だが、まず1台目の入りで大きく失敗した。着地時にバランスを崩し、そのまま集団に離されていき、ラスト9,10台目のハードル間インターバルは3歩で走りきるのがやっとという程に減速してしまった。結果は16"94(-0.9)で7着。最後まで走りきる体力が現状なかったということが最も大きな課題となったので、10台のハードルを跳ぶ練習を取り入れることで後半を強化していく。

残念な結果に終わったが、長い期間苦しめられてきた怪我から解放され、これからはしっかり練習を積んでいけるので、今シーズンの対校戦では活躍を期待したい。本人は8月の東医体と9月末の京大戦に照準を合わせるらしいので、そこでどんな記録が出るか楽しみである。

### **16:10 男子2部 4×100mR 予選**

男子2部4×100mR予選は5組で行われ、各組1着+3が翌日に行われる決勝に進出できる。1組2レーンに東大が出場。走順は、阿久津(2年)-聲高(1年)-河野(4年)-長久(4年)の順である。東大チームは対校試合ではバトンを失敗しがちであったため、練習ではバトン練習を入念に行ってきた。その成果は果たして現れるのであろうか。

試合当日、若干の曇りではあるが、気温は高めでコンディションとしては良い。風もそこまで強くはなく安定している。号砲が鳴り、いざスタート。阿久津が良いスタートを切り、前の選手に詰めていく。そして、聲高とのバトンも調子がよく、聲高もさらに詰める。河野と聲

高のバトンもうまくいく。ついに最終コーナーである。河野がさらに前に出て2番手に出た。そして、アンカーの長久にバトンは渡る。懸命に前の走者を追う。しかし、組3着でゴール。記録は41"27である。

リレーで結果を残せなかったことに関して、やはり4人ともとても悔しそうであった。走力、バトンパスともに改善の余地は残っており、これからの対校戦で勝ち抜いてくれることを期待したい。

### **17:05 男子 2部 10000m 決勝**

近藤(3年)の出場。午前中にパラパラ降っていた雨もやみ、日差しも雲で遮られているという長距離にとっては絶好のコンディションとなった。東京マラソンを走った後から思うように練習を積めていなかったが、直前で調子を取り戻し10000mへの出場を決意。好記録が期待された。

留学生がハイペースで集団を引っ張ったが、近藤は冷静で、集団の中央に位置し、最初の1000mを2'47"で通過。1000mを過ぎたあたりから縦長だった集団が分裂し始め、近藤は中央にできた集団の中で1キロ3分弱のペースを維持。4000mを過ぎてから集団の先頭で引っ張る積極的な走りを見せ、5000mは14'30"で通過。落ちてきた選手を1人ずつとらえていったが、7000m手前から苦しくなり、集団の最後尾となったが粘って集団から離れずについていった。9000mあたりから再び集団の前方に出ると、ラスト1000mは2'48"で走り、29'16"49の13位でゴール。

入賞には届かなかったが、他大学の選手と対等に走る姿は長距離、さらには部全体に感動を与えた。今回の記録は東大新記録となる素晴らしい記録であった。留学生のオーバーペースに惑わされず、冷静に自分のペースを刻めたことが今回の大記録につながった。今後は28分台も視野に入り、ますますの活躍が期待される。

### **18:35 男子 2部混成 400m**

1組2レーンに寶田(4年)の出場。十種競技初日の最終種目。天候は晴れ。気温も適温でレースに適していた。ここまでは調子があまり上がらず点数が予想よりも得られなかったのが、400mでは攻めのレースをする、と宣言した。

号砲とともにスタート。リアクションタイムは0.167秒で組2番目。勢いよく飛び出す。その勢いそのまま、宣言通り前半から飛ばしてゆく。同じく飛ばしている3レーンの選手を追う。バックストレート付近で4、5レーンの選手を抜く。前半から突っ込んでいったにもかかわらず、後半になっても垂れることはない。そのままホームストレートに入ったところでトップに立つ。7レーンの選手が迫ってくるが、それを振り切りゴール。

51"20で1着、760点を獲得した。宣言通り攻めのレース。前半から攻めて、後半粘ることができ、PBを更新するレースをした。関カレという大きなレースでPBを更新したのは主将としての意地が感じられるレースとなった。

5/26(金)

### **9:50 男子 2部混成 110mH**

2組1レーンに寶田(4年)の出場。十種の中でも、この競技は得意種目であるので期待がかかった。レース前は、2時間半前から余裕を持ってアップし、雨が降っていたのでハードルを使った練習は最小限にとどめるなどの工夫をした。

レース直前、スタートを待たされる状況にあったが集中を保った状態でスタートした。アプローチは上手くいき、隣の2レーンの選手に先行することができたが、隣の選手を意識しすぎたのか動きが硬くなり、10台目まで硬いまま走ってしまった。結果は16"07(+2.3)で8着。追い風は強く吹いているが、グラウンドコンディションは良くなかったため、悪い記録ではないと思われる。

今後、ハードルに関しては七大戦や京大戦で15秒前半、14秒台を目指して練習していきたいと語っている。

### **13:20 男子 3部 3000mSC タイムレース 決勝**

福島(M1)の出場。朝方激しかった雨はすっかり降り止み、しっとりとした空気に包まれた日産スタジアムは、関東インカレのもたらす特別な雰囲気と相俟って選手の力を全て引き出してくれるに違いない良好な状態にあった。

2部の予選と合同で行われる3部タイムレース決勝第1組が静寂の中スタート。福島は背筋の伸びたりリラックスしたフォームで最後方から試合を展開。危なげなくハ

ードルを超えていき、1000mの通過は3'02。先頭はイーブンペースを維持し集団がやや縦長になる中、後方でこらえる。昨年の七大戦以来の3000m障害とあってか、ハードリングにムラが出てきた。2000m通過は6'12。5周目に突入して後続を引き剥がしにかかったトップがペースを上げ、一気に集団がばらける。福島は崩れることなく応援を励みに粘りの走り。ラスト1周で持ち前の切れ味鋭いスパートをみせ9'24"40の組12着でゴール。

その後の組の結果を踏まえ、福島は3部優勝となった。タイム自体もPBには届かないものの本人も納得する記録。2日前の1500mから見事に立て直し応援団も大いに勇気づけられた。

### 19:25 男子2部混成1500m

14レーンに竇田(4年)の出場。二日間にわたって戦った十種競技最後の競技であり、過酷なレースとなることが予想される。しかし、気候は日が落ちて涼しく中距離を走るには絶好のコンディションであり、高得点が期待される。また、ここまでの種目でPB更新を狙うことができる得点を積み上げてきており、応援にも熱が入る。

スタートは落ち着いて全体の間あたりに位置取りをする。300mを過ぎたあたりから一人一人着実に前を走る選手を拾っていき、1周目を67"で通過。多くの選手は大幅にペースが落ちる中でリズムを崩すことなくレースを進め、700m手前で先頭に躍り出て2周目を2'20"で通過。一時は後続を引き離すも900m通過あたりから後続がペースを上げ追いつかれてしまう。3周目を3'36"で通過したのは徐々に脚の動きが重くなり2人の選手に抜かれてしまうが、残り300mも集中を切らすことなく走りきり、4'33"43の組3位でゴールした。総合得点は5509点の14位であった。

中盤の攻めの走り、終盤の粘りの走り、さらに総合得点ではPBを更新し、見ている活力を与えられるようなレースであった。

5/27(土)

### 9:50 男子2部,3部10000mW 決勝

男子2部10000mW決勝には渡邊(5年)、棟重(4年)、堀江(3年)が出場。気温はそれほど高くなかったものの直射日光が非常に強く、長時間の勝負となる競歩にとっ

てコンディションは悪かった。昨年2部優勝を果たした渡邊をはじめ、棟重、堀江もかなりの実力者であるため、高得点の期待がかけられた。スタート後、渡邊は先頭で集団を引っ張り、棟重は集団中ほど、堀江は後方につけた。

渡邊は初めこそ1km4'09というかなりのハイペースで入ったもののその後は3000m時点では4'20で刻み安定した歩きで3番手に位置付けたが、その後の1000mごとのラップは4000mで4'20、その後4'26-4'24-4'28-4'25と刻み、ラスト1kmで4'19にペースを上げてスパートをかけて勝負に出たところで3枚目の警告を受け、ゴール直前での失格となった。

棟重は、序盤は1km4'20~30ペースで集団の中で歩いていたが、4km通過4'27で、以降ペースを落としはじめ単独歩となった。5000m通過4'36-4'38-4'38-4'50-4'49それでもラスト1km4'41で持ち直しペースを上げてフィニッシュし、46'00"02の7位であった。

一方堀江は1km4'25前後のペースを崩さず後方集団について歩き、4km通過ラップ4'28、以降ペースダウンしてきた他校の選手を着実に抜いていった。5km(ラップ4'28)過ぎには前方を歩いていた棟重らの集団を追い抜き一気に6番手に浮上し、続いて4'27-4'31-4'29-4'32、ラスト(ラップ4'21)は他の選手の追走をかわし44'39"77の4位であった。

大学院1年の櫻井は、3部の10000mWに出場。三人が参加。3000mの通過ラップを4'52、4000m通過を4'52と5分を切るペースでレースを進め、その後は、5'00、5'05、5'07、5'06、5'01、5'00と5分を少し超えるタイムで安定したペースで進めた。合計タイムは、49'23"83でゴールした。順位は、3位だった。

結果としては下馬評を下回る得点であったが2人入賞し得点もあげた。また、1~3位までを平成国際大が独占したため、今後の目標が明確に表れたともいえるレースであった。

### 11:00 男子2部800m 予選

4組5レーンに坂口(3年)の出場。昨日までの曇天とは打って変わり、爽やかな快晴で走りやすい天候であった。下馬評では苦戦を強いられることが予想されていたが、展開次第では準決勝進出も狙える位置であった。まずは

予選で全力を尽くし、準決勝に進むことを目的として臨んだ。

号砲。スタートは落ち着いて入る。ブレイク直後は集団後方に位置し、バックストレートでは6,7番手につける。200mの通過は28"4。200mを通過後、ギアを少し入れ替え、次の曲線では前方4番手にまで浮上。確実に着順を狙える位置につく。400mの通過は57"8。いい順位を確保したまま、レースは残り1周へ。ラスト1周は粘りの走りを見せる。だが、バックストレートでは5番手に後退。前方を見据えた走り最後まで追いかけるも、前方集団にラストで突き放され、1'58"91の6着でゴール。

準決勝へ進出することはできなかったが、組8番手であった下馬評を覆して6着に食い込む熱い走りを見せてくれた。悔しい結果に終わってしまったが、初めての関東インカレは彼にとって大きな経験となっただろう。これからのさらなる活躍に期待したい。

### **11:30 女子1部 800m 予選**

3組4レーンに高石(3年)の出場。先日全日本インカレのB標準を突破した勢に乗って、まずは昨年に引き続き準決勝進出が期待された。風はやや吹いているものの、気温は高すぎず、悪くないコンディションであった。

落ち着いたスタートを切り、ブレイク後は2番手につける。そのまま楽につく展開で、2番手のまま400mを63"4で通過。やや外側に膨らみながらも2番手を維持し、大きな変動もないまま最終コーナーへ。最後の直線で全体的にやや加速し、ひとりに抜かれるも上手くスピードアップに対応し、2'13"85の3着でフィニッシュ。着取りでの予選通過、準決勝進出を決めた。

観ている側としても何の不安もなく応援できるような安定感が感じられ、昨シーズンも関東インカレや関東新人をはじめ数々の対校戦で彼女がレース経験を積んできたことの現れだと言えるだろう。

### **12:40 女子1部 400mH 予選**

女子1部400mH予選は1組7レーンに坪浦(4年)が出場した。長い間怪我に苦しみ、冬季練習もあまり詰めていなかったが、ここ最近になって本人がしたい練習ができていよう、今シーズン最初のレースとなるが今レ

ースには期待が持てた。当日は、前日の雨が嘘のように、晴れて気温が高く、レースにはもってこいの状態であった。女子1部400mH予選は5組2着+6が翌日の準決勝に進めることになっている。下馬評では、本人のPBを考えれば、準決勝進出が見えていた。

号砲とともにレースはスタート。リアクションタイムは0.200秒で組4番目であり、スタートは悪くなかった。1台目の入りは問題なし。8、9レーンがリードしそれを追う。前半は抑えめであるため、差は開いてゆく。後半から巻き返していきたいが、7台目を過ぎてからもペースは上がらず、7番目でホームストレートへ。9台目で2人を抜かすが、追い上げもそこまで。

結果は、63"14で5着であった。本人が結果報告の場で言っていたが、思ったよりも体が動かなくタイムも悪かった。準決勝が見えていただけに悔しい結果となった。本当はチームを勢いづかせるようなレースがしたかった。それなのにこのような結果になり残念だ。このような結果で終わるつもりはないので、今後の大会で、そして全カレで活躍するので期待してほしいと。今シーズンはまだ始まったばかり。今後の結果に期待するばかりである。

### **14:00 男子3部 200m タイムレース決勝**

1組4レーンに藤田(M1)、6レーンに稲葉(M1)が出場。他の3部の選手も含め、練習時間の確保が難しい中での出場である。

コーナーではアウトレーンの選手に大きく引き離されるが、直線で両選手ともに巻き返した。

結果は、藤田が21"45で1着、稲葉が21"81で4着だった。風速は不明なため参考記録となるが、引退の衰えを感じさせない走りであった。

2組3レーンには小西(M2)が出場。藤田、稲葉以上に練習を詰めていない中での出場である。

スタートから他の選手から大きく引き離され、ホームストレートでも追従できずにフィニッシュ。

22"67(+1.2)で5着だった。

タイムレース総合結果は藤田が1位、稲葉が6位、小西が9位であった。

**14:10 男子2部200m 予選**

男子2部200m予選は5組で行われ、各組3着+3が準決勝に進出できる。東大からは4組8レーンに河野(4年)の出場。申請記録では予選通過は厳しいが、2選手の欠場と標準切りの際に見せた勝負強さにより、厳しいと予想される今レースでも期待が持てた。

リアクションタイムは組で最も遅かった。リラックスしたフォームでコーナーを回るが、他大学の選手に引き離される。ホームストレートでその差を詰められずフィニッシュした。

記録は21"61(+0.6m)で4着。PBを更新した。今後の対校戦における活躍に期待したい。

5組2レーンに聲高(1年)が出場。インターハイに準決勝まで進出した期待の新星であった。

2選手欠場でレースは行われた。号砲とともにスムーズに加速。ホームストレートでは他の選手と引き離され、フィニッシュ。

21"58(+1.7m)で5着であったが、1年生とは思えない強さを見せた。この記録は本人のセカンドベストであるが東大歴代6位記録に相当するから、東大記録21"18の更新は勿論、全国水準の勝負が十分に期待される。

**16:00 女子1部800m 準決勝**

1組9レーンに高石(3年)の出場。天気は、午前中の子選と同様に晴れ間が続いていた。何よりも決勝進出が部員一同の願いであり、東大記録の更新も期待された。

号砲が鳴り、他の選手に遅れず勢いよく飛び出す。ブレイク後、先頭集団の右後方につけ、5番手に。コーナーを曲がりホームストレートに入ると、果敢に前に出て4番手に上がる。400mの通過は64"1。そのまま順位を維持しながらバックストレートに入るが、ここで先頭の3選手が一気に前に出る。高石も必死に食らい付くが、ラスト250m付近から対応できなくなり、残り200mの所で後ろの選手1人に捕らえられる。順位を維持しようと粘るが、最後の直線で1人、2人、3人とかわされ、2'15"85の7位でゴール。決勝進出はならなかった。

昨年度も高石は準決勝まで駒を進めたが、決勝には残れなかった。だが、今年は春先に自身の東大記録を更新するなど、着実にステップアップしていることは確かだ。

来年こそは決勝という新たな舞台へ歩を進め、さらには表彰台に上ることを大いに期待したい。

**17:35 男子2部4×400mR 予選**

男子2部4×400mRは5組で行われ、各組1着+3が翌日に行われる決勝に進出できる。東大は、5組6レーンに小嶋(3年)-河野(4年)-松田(2年)-長久(4年)のオーダーで出場した。同組には昨年まで1部校であった強豪・大東文化大学がおり、決勝進出には1着は厳しいから+3を狙うしかないという状況だった。しかし、2走の河野は直前の記録会で200mの関カレA標準を突破、100mでもPBを更新しており調子がかかなり良い。先日行われた六大会で400mを49秒台で走っており、そこからの好調を維持している。4走の長久も今までで一番調子が良いという状態であり、1走の小嶋も怪我なく練習が積めており調子は良く、前半で勝負を決めると壮行会で言うほどであった。3走の松田も4月下旬頃から調子を徐々に上げてきており、高校時代に出したPBに迫るような走りをしており期待が持てた。当日は、晴れていたが暑すぎるわけではなくレースに適した状態であった。

号砲とともにスタート。リアクションタイムは0.229秒で組5番目。小嶋は前半から飛ばして前の選手を抜いてゆく。ホームストレートにはいるところでトップに立つ。しかし大東大がそれを追ってきている。前半飛ばしたせいか、最後に垂れて3位でバトンは2走河野へ。河野はオープンになったところで4位に。順位はそのまま推移してゆくが残り80mになったあたりからギアを入れ替え、前の二人を抜き、2位へ。さらに3位との差を広げてバトンは3走松田へ。松田は果敢に攻めてゆく。攻めるが1位大東大との差は縮まらない。そのままホームストレートへ。前半攻めたからか粘れず最後に一人にかわされ、バトンの受け渡しで少し止まったため4位でバトンは最終走者長久へ。すぐに一人抜かして3位になる。2位との差を少しでも縮めたいが、第3コーナー真ん中付近で一人にかわされる。前半に攻めたため、後半になると垂れてきたが、ホームストレートで一人を抜かず。しかしすぐに他の一人に抜かされ、もう一人の猛追をしのいでゴール。

結果は3'19"22で4着だった。結果としては準決勝には行けなかったが、3'20を切れたことは大きいと思われる

る。メンバーも2、3年がいることを考えれば、来年の関カレで戦えるようなメンバーが揃えられそうである。ただ、今シーズンはまだ始まったばかり。3'20を切れたことを出発点に今シーズン他の対校戦でいい結果を出せそうである。今後に期待したい。

5/28(日)

### **9:00 男子2部ハーフマラソン 決勝**

阿部飛雄馬(2年)が出場。競技場をスタートして場外に出、2.174キロの周回コースを9周して再び競技場へと戻ってくるコースで、先頭から周回遅れとなると失格となる。

阿部は練習でも調子が良く、本人もこの日のレースを心待ちにしていた。

スタートは9時、天気は晴れ気温は22.5度と、この時期としては少し暑い中レースがスタート。留学生ランナーや箱根常連校の選手が先頭集団を引っ張る中、阿部は落ち着いて最後尾付近に位置取り、1kmを3'04で通過。その後周回コースに入ってから前を徐々に捉えていくことで順調にペース刻み、3kmを9'20、5kmを15'44で通過した。なおも淡々と走り10kmの通過は32'06で、この時点で62位。しかし前を一緒に追える選手が周辺からいなくなると、徐々にペースが落ち始める。周回コースの6周目では8分を超えてしまった。7周目を降少し持ち直してペースを上げ15kmを49'52で通過するも、8周終了時点で先頭の選手に周回遅れとなり、失格となった。

ただ、記録こそ残らなかったものの、阿部の最後まで諦めない気持ち、完走できなかった悔しさは全員に伝わった。これを受けて、箱根予選会に向けた長距離パートの更なる意識の高まりが期待される。

### **16:15 男子2部5000m 決勝**

男子5000mには近藤(3年)が出場。初日の10000mで力走を見せたが、その疲労で調子を崩しているなかでの出走であった。天候は晴れ、トラックには日が射し、時折強い風が吹くコンディション。

スタート後、大きな集団の中盤外側に位置付けた。2'45"で1000mを通過。集団が少しずつ縦長になっていくなか、やや後方に位置を変えていく。2000mを前にしてその集団からおいてゆかれ、単独走となる。

1000~2000mのラップは2'55"。その後、ペースは一気に落ち、追い付いてきた選手に抜かれていく苦しい展開に。3000mを迎える頃には表情も険しく、動きにも力がなくなっていた。2000~3000mのラップは3'28"。まもなく先頭とは周回差に。そこからまた抜かされ続ける展開が続く。3000~4000mラップは3'30"。ラストも力が入らない様子であったが、しっかりと完走した。ラスト1000mは3'27"。16'04"91でのフィニッシュ。

長距離エースとして常に重圧を受けている近藤。今回も複数種目エントリーとなり負担が大きかったことは否めない。今後関カレのような高いレベルで戦っていくには近藤も含め長距離パート全体でのさらなるベースアップが必要だと痛感させられる結果であった。

◎フィールド種目

5/25(木)

### **10:00 男子2部砲丸投 決勝**

十種競技3番目の種目は砲丸投。寶田は砲丸投を苦手としておりいかに失点を抑えられるかがポイントとなる。

1投目はグライドで投げて堅実に7m93を投げる。左足をついてから砲丸を加速させることが出来ており好記録が期待できそうだ。応援席のアドバイスを聞き2投目で記録を8m21に伸ばすが、もう少し記録を伸ばしたいところである。3投目では焦りが出てしまったか、7m92と記録を伸ばせず8m21で終了し379点を獲得した。もう少し記録を伸ばしたかったところではあるがまだ3種目目であり、これからの種目に期待がかかる。

### **10:30 男子2部混成走幅跳**

寶田(4年)の出場。1日目は気温が上がらず小雨のぱらつく中での試合となった。

全体2種目目にあたる走幅跳は苦手としている踏み切りがうまくいかないものの、1本目5m71とファールせず最低限の記録はしっかり残した。その後1本ごとに10cmずつ記録を伸ばし、目標には届かなかったものの5m91(+0.7)と大きな失点は避け競技を終えた。

### **13:00 男子2部混成砲丸投**

佐竹(3年)の出場。競技開始直前までは雨が降っており、競技開始とほぼ同時に止んだもののサークルは濡れ

ている様子であった。29人の選手が出場したが、ベスト記録が12～13m台の選手が多く、厳しい試合が予想された。関東インカレ初出場となる佐竹は春先に起こした肉離れがほぼ完治し、かなり良い状態に仕上がっているということで好記録が期待された。

1投目、緊張からか身体の動きが固く、砲丸に力を伝え切ることができなかった。記録は9m88。2投目では大幅に修正するも、まだ身体の動きは依然として固い。記録は10m19。3投目もファールに終わり、10m19の記録で競技を終えた。

本人によると、練習投擲の時点で思うような投擲ができず、心の整理がつかないまま試技に入ってしまったとのこと。プレッシャーのかかる大舞台で持てる力を十分に発揮することの難しさを感じさせた。

### **15:35 男子2部混成走高跳**

寶田(4年)の出場。

全体4種目目にあたる走高跳は、初めの高さの160cmをまずまずの跳躍を見せ1本でクリア。続いての165cmでは助走が上手くいかなかったがなんとか1本でクリアした。しかし続いての170cmでは高さを意識してか、助走がさらにくずれ3本とも落としてしまい結果165cmで競技を終了した。

5/26(金)

### **10:45 男子2部混成円盤投**

円盤投を苦手とする混成選手は多く、特に強い雨の降る今回の難しいコンディションの下では円盤投で他の選手に差をつけることが可能であろうと期待された。雨の場合円盤投げでは足が滑ることと指がかからなくなることを避ける努力が必要となる。

練習投擲で足元の悪さを感じた寶田は、一投目を立ち投げで臨み20m13の記録を残す。更に記録を伸ばそうとターンで臨んだ二投目は、20m後半程度飛んでいたように見えたものの、体勢を崩し投擲物が落下する前にサークル外に出てしまい、惜しくもファール。このままでは終われないと力んだのか三投目は右のネットに当ててファールし、20m13で試技を終えて274点を獲得した。

### **13:30 男子2部混成棒高跳**

寶田(4年)の出場。

2日目も朝から時おり雨が降るなど厳しいコンディションの中での試合となった。

全体8種目目の棒高跳は冬から力を入れて練習していた種目であり、3m80以上が期待された。しかし試合直前に他の種目の練習に時間をとられた影響か、練習跳躍から練習不足感のある跳躍となってしまった。それでも試合ではしっかりと立て直し初めの高さの3mではまずまずの跳躍を見せ、1本でクリアした。しかし続いての3m30の1本目でポールを折るアクシデントが発生し、1本目を失敗してしまう。それでもアクシデントに負けずしっかりと持ち直し、3m30を2本目でクリアした。しかしポールの折れた恐怖からか3m60では上手くポールが立たず、結果として目標には大きく届かない3m30で競技を終えることになった。

跳躍種目全体としては本来持っている力を出しきれない厳しい結果となったが、悪天候やアクシデントの中、NMを出さず最低限の記録は残し続けたのは十種競技としてはすばらしかった。

### **15:30 男子2部,3部三段跳 決勝**

三段跳には2部に木下(3年)、3部に須藤(M1)の出場。

須藤は1本目に13m87(-0.8)を跳び、2位で試技終了。実力はもっと高いので、今後の活躍に期待したい。

木下は2本目に14m80(-0.5)を跳び7位でトップ8に残る。その後6本目に14m88(-0.3)を跳ぶが、周りの選手も記録を伸ばし8位として試技終了。

今年度はとてもハイレベルな戦いであった。実力のあふれる選手が多く来年度もハイレベルな戦いになることが予想されるが、実力を高め、活躍してもらいたい。

### **16:40 男子2部混成やり投**

寶田にとっては、自己ベストが40mを超えていて投擲種目の中では比較的得意としているやり投ではきちんと得点を確保しておきたい。

練習投擲では体が初めから開いていたり腕を畳んでしまっていたりと上手く噛み合っていなかったが、それらの点や脚を使って投げることを意識して一投目33m43、二頭目36m54、三投目39m70と着実に投げを改善して

いき、自己ベスト更新には至らなかったが 39m70 で 438 点を獲得した。

5/27(土)

### **10:00 男子 2 部円盤投 決勝**

5/27(土)の 10:00 から男子 2 部円盤投が行われ、土井(4 年)が出場した。快晴で気温が高く、応援席に座っているだけでも汗が噴き出すような状況の中での試合となった。

1 投目はとりあえず記録を残すことを優先し、それほど大きな動きをせずに行ったところ、記録は 27m64 であった。本人曰く 2 投目で良い記録を出して流れに乗りたいたいとのことであったが、力み過ぎてしまったのか円盤は大きく右に逸れ、2 投目はファウルとなってしまった。3 投目に巻き返しを狙うも、後がない不安からか動きに思い切りを欠き、記録は 28m67 にとどまった。結果は 24 位であった。土井のベストが 35m であることを考えると実力を出し切れなかったと言わざるを得ないが、この日の試合はレベルが高く、8 位の選手でも 38m を超えていたため、力の底上げが不可欠であるように思われる。関カレは終わったがまだシーズンは始まったばかりなので土井には更に練習に精進し、記録を伸ばしてもらいたい。

### **11:00 男子 2 部走幅跳 決勝**

1 組 2 番に木下(3 年)の出場。雨が降り気温も低かった前日までとは打って変わり、気温も高く日差しの強い環境での試合となった。向かい風ながら練習跳躍でも動きにキレがあり、入賞が期待された。

1,2 本目は惜しくもファウルだったものの、どちらも 7m を超える跳躍だった。他の選手も追ったり向かったり不安定な風に苦しめられており、十分に 3 本目での巻き返しが狙えた。そして 3 本目では風も止み、踏み切り板には届かなかったもののスピード感のある助走から 7m07 の跳躍を見せ、ベスト 8 に残った。4,5 本目ではまたもファウルだったが、優勝も狙える大きな跳躍でラスト 1 本に期待が高まる。そして手拍子を求めた 6 本目では自身の持ち記録に近い大跳躍を見せ、見事 7m16 で 3 位に入った。このとき風は -0.3m だった。

風の影響か今回はファウルが多かったものの、持ち前の勝負強さを発揮し 6 点を獲得した。去年よりも実力が

増しているのが感じられ、今後のさらなる飛躍が期待される試合となった。

### **15:00 男子 3 部ハンマー投 決勝**

男子 3 部ハンマー投には鍵本(M1)が出場。試技順で鍵本の 1 つ前は流経大院の実力者でプレッシャーがかかる。

1 投目では右のネットに当ててしまいファウル。待ち時間入念にターンを確認し、2 投目修正するも今度は左の線を超えてしまいファウル。2 回ファウルしてしまい厳しいかと思われたが、3 投目には合わせてきて 42m18 を記録し、競技を終えた。自己ベスト更新とはならなかったが、試技ごとに落ち着いて投げを改善していく様子は流石院生と言ったところだ。

5/28(日)

### **10:00 男子 2 部棒高跳 決勝**

男子 2 部棒高跳には三宅功朔(2 年)が出場した。風は時折向かうがほぼ無風。晴れて少し暑いぐらいの 5 月らしいコンディションだった。

練習跳躍は体が重い。4m60 は 2 回とも成功したので 4m60 から試技を始めることにする。4m60 は一本でクリア。4m70 も挑戦し、1 本目は失敗。ポールを一段階硬くして、2 本目でクリア。4m80 はバーに触れるも 1 本でクリア。4 位入賞を決め、4m90 に挑む。1 本目はポールが柔らかく失敗。2 本目はさらに硬いポールに変更した。高さはあるのだが頂点があわず失敗し、3 本目は動作がかみ合わず失敗。4m80 で競技を終えた。順位も 4 位で表彰台を逃す。5m をクリアできる硬さのポールを使えるようになってきただけに、記録と順位は不満が残る結果だった。

## 3. 選手の言葉

### 短距離 4 年 河野太郎

#### **(200m,4×100mR,4×400mR)**

今年の関東インカレは非常にレベルが高く、東大陸上部の短距離としては厳しい結果となりました。

個人としては、200m,4×100mR,4×400mRに出場しました。200mではベストは出たものの、終盤の走りがバラバラになってしまい、満足のいく走りができませんでした。

予選通過タイムがベストよりもだいぶ高い記録になっており、他選手との力の差を見せつけられる試合となりました。とはいえ、ここにきてようやくベストを更新できたので、その点は今後期待できる点であったと思います。

4×100mRについてもメンバーがなかなか固定されない中での試合でしたが、そこそこのタイムは出たのかなと思います。四大戦で全日本インカレの標準を狙えるかという位置にいると思うので、四大戦では全日本インカレの標準突破を狙って行きたいです。

総じて今回は東大にとって力の差を見せつけられた大会になりました。この悔しさを忘れず、さらに練習を積み重ね、今後の大会で最大限の力を発揮できるようにしていきたいです。

最後になりましたが、応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々、本当にありがとうございました。今後ともご声援、ご指導をよろしくお願い致します。

### 短距離4年 坪浦諒子 (400mH)

昨年夏から長く続いた故障を乗り越え、何とか関東インカレに出られるところまで持ってくることが出来ました。今シーズン初戦ということで自分でもどこまでいけるか楽しみにしていた部分もありましたが、結果として実力不足を痛感する試合となりました。

2年前の関東インカレで本気で一部昇格を目標に掲げ達成出来なかった時、ただ応援しか出来なかったことが悔しく、自分が活躍することで一部昇格に向けて東大を勢い付けたいと心の底から感じました。最後の関東インカレが終わり、自分自身結果が出せなかったこと以上に、2年前に感じたチームへの貢献が果たせなかったことをただただ悔しく思います。

記録としては練習状況からして正直妥当なものだと捉えていまして、ここをスタートラインとして今後調子を上げていきたいと思っています。まずは四大戦で全日本インカレの標準切りをし、最終的には必ず自己ベストを更新してラストシーズン悔いのないものとしたいです。この度は応援していただき、本当にありがとうございました。

### 中距離3年 高石涼香 (800m)

女子800mに出場しました中距離3年の高石です。

二年目の関東インカレとなりましたが、やはり走る前は緊張しましたし、去年は作戦が功を奏して準決勝まですすめた以上、今年は確実に予選を通らないといけないという点でプレッシャーのかかる試合でした。準決勝まで着取りで駒を進め、決勝に残るといのが悲願であり、4月末の競技会で自己ベストを出してから順調に練習を積んでいました。

予選は3着+4という条件下で資格記録は4番手という組でしたが、自分のレースは積極性が持ち味だと思っていたので、フロントランする傾向のある選手のペースにしっかりとついていくことにしました。結果、600m地点まで二番手で付いていくことができ着順で予選を突破することができました。

準決勝は組に自己ベストが2分一桁台の強力な選手が3人おり、決勝に残るためには厳しいレースが予想されました。しかしハイペースでレースが展開し、ラスト600m地点で先頭集団のほうにつけていけばプラスで拾われる可能性はあると考え、前半から積極的に前についていきました。ですが、外側を走らされたことに加え想定よりもスローでの展開で、自分にとっては不利な展開となってしまいました。あらゆる展開でもしっかり勝負に絡んでいけるだけの実力が足りませんでした。

関東インカレは関東のトップレベルの層の女子選手と走れるこの上なく素晴らしい大会で、自分を成長させてくれる場でもあります。来年は最後の関東インカレとなりますから、大好きな大会で結果を残せるよう、今からまた練習に励んでいければと思っています。

応援・サポートなどありがとうございました。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。

### 長距離3年 近藤秀一 (5000m,10000m)

2月末に東京マラソンを走ってから慢性的に脚の状態が悪く満足いく練習ができていませんでした。しかし、2週間前からはやりたい練習ができるようになってなんとか間に合わせる事ができました。

初日の10000mは、入賞こそできませんでしたでしたが、自分の持ち味を最大限発揮するレースをすることができました。その結果として東大記録を更新する事ができたのは嬉しく思います。

しかし、レース後に痛めていた古傷が再び悪化してしまい、最終日の5000mはレースにならない状態になってしまいました。付け焼刃の身体の状態ではまともに走るのには厳しいことを痛感させられました。

3回出場させていただき、年々入賞ラインとの距離は詰まってきています。来年は、最後の関東インカレとなるので点数を取って一部昇格に貢献します。これから応援よろしく願いいたします。

### 競歩3年 堀江駿 (10000mW)

関東インカレの部としての目標が「一部昇格」であることを踏まえて、個人的な目標として「入賞し、対校得点でチームに貢献すること」を掲げてレースに臨みました。五月に入り調子を大きく崩していましたが、練習量や練習内容を調整して調子が上向いた状態でレースを迎えることができました。

レース当日は想定よりも暑く、厳しいコンディションとなりました。その中でレース序盤はプラン通り落ち着いたペースで入り、中盤以降はオーバーペースだった選手たちを捕らえて順位を上げていくことができました。最後は横浜国立大の選手と激しい4位争いになりましたが、うまく前に出て4位入賞を果たすことができました。

順位的には目標の入賞という成績を収めることができたとおもいますが、タイム的には力不足であり不満の残る結果となりました。来年の関東インカレで表彰台に乗るため、また全日本インカレで活躍するためにはもっと実力を付けなければいけないと実感しています。

これからトラックシーズンとなり七大戦をはじめとする対校戦が続いていきます。さらにチームに貢献するためスピードを磨いて実力を伸ばしていきたいです。これからもご支援、ご声援よろしく願いいたします。

### 跳躍3年 木下秀明 (走幅跳,三段跳)

2日目の三段跳、3日目の走幅跳で計12本、応援ありがとうございました。お陰様で三段跳では8位入賞、走幅跳では3位入賞で表彰台という結果を残すことができました。どちらも実力通りの記録・順位で大きく飛躍する結果ではありませんでしたが、最低限自分の仕事は果たせたかなといった印象です。

シーズン序盤ということもあり、技術面ではまだ未完成の部分が多いですが、それでもある程度跳べているのは冬季の筋力トレーニングの賜物です。筋力がついたことによって助走スピード・安定感が増しました。これからのシーズンでは技術面でも洗練を怠らず、東大記録や全日本インカレ出場を視野に入れ、爆発的な記録更新を目指します。応援宜しく願いいたします。

### 混成4年 寶田雅治 (十種競技)

当日までの調整として、本番の生活リズムに合わせるため、一週間前から5時に起きるようにしました。試合前日は競技場近くのホテルに前泊し、環境がいつもと少し変わったことで夜はぐっすりとは眠ることはできなかったのですが、余裕を持って調整できていたため、ほぼ万全の体調で試合に臨むことができました。

東大の応援を受けながら2日間競技して、自己ベストを大きく更新することができた400mを始めとして、力を出し切って総合点数は5509点で順位は14位でした。6300点を出して表彰台に乗ることを目標としていたため、自己ベストを出すことはできましたが、非常に悔しいです。ただ、周りの6000点を取ることができるような選手と自分の動きを比較した時に自分の動きが6000点を取れる選手のそれではなかったこと、ほとんどの種目で失敗することなく自分の力が出しきれていたことを考えると客観的に見たら妥当な結果だったのかなと感じています。

今後については残りの対校戦では十種競技がないため、個別の種目に挑戦したいと考えております。具体的には棒高跳と400mHで七大、京大と活躍していきたいです。4年生なので残りの競技生活は少ないですが、1日1日の練習を今まで以上に大切にしていこうと思っています。OB、OGの皆様におかれましては今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしく願いいたします。

## 4. 試合結果

## 第96回関東学生陸上競技対校選手権大会

## 男子2部 100m

## 決勝(+0.9)

1	田中 佑典	ウエルネス大	10"40
2	小林 一成	駿河大	10"54
3	白石 黄良々	大東大	10"55
4	仁上 祐一朗	流経大	10"61
5	山縣 史博	東農大	10"74
6	石井 裕也	東農大	10"76
7	中野 彬徳	横国大	10"76
8	霜鳥 佑	大東大	10"83

## 男子2部 200m

## 予選(5組 3着+1)

## 4組(+0.9)

4	河野 太郎	東大	21"61
---	-------	----	-------

## 5組(+1.7)

5	聲高 健吾	東大	21"58
---	-------	----	-------

## 決勝(+1.6)

1	田中 佑典	ウエルネス大	20"71
2	佐藤 風雅	作新大	21"11
3	石井 裕也	東農大	21"36
4	白石 黄良々	大東大	21"44
5	須貝 陽太郎	大東大	21"51
6	中野 彬徳	横国大	21"62
7	吉田 大夢	東経大	21"73
8	小林 一成	駿河大	21"87

## 男子2部 400m

## 決勝

1	佐藤 風雅	作新大	46"32
2	若林 康太	駿河大	46"70
3	中川 滋貴	駿河大	47"50
4	山崎 大紀	大東大	48"06

5	工藤 大晟	駿河大	48"34
6	富岡 優也	大東大	48"50
7	鈴木 夢人	群大	48"60
8	星野 蒼太	東経大	48"90

## 男子2部 800m

## 予選(5組 2着+6)

## 4組

6	坂口 諒	東大	1'58"91
---	------	----	---------

## 決勝

1	齋藤 未藍	青学大	1'48"74
2	神戸 航輝	大東大	1'50"12
3	鹿居 二郎	亜大	1'50"17
4	庄司 貴紀	駿河大	1'50"39
5	青柳 良英	横国大	1'52"10
6	前川 優月	東国大	1'53"24
7	山根 康太	成蹊大	1'53"81
8	風戸 啓希	一橋大	1'58"06

## 男子2部 1500m

## 予選(4組 2着+4)

## 1組

15	妹背 雄太	東大	4'00"07
----	-------	----	---------

## 決勝

1	井上 弘也	上武大	3'51"84
2	渡辺 拓巳	大東大	3'52"71
3	渡辺 拓巳	日菓大	3'52"74
4	生方 敦也	青学大	3'53"38
5	物江 雄利	駒大	3'53"78
6	中村 祐紀	青学大	3'53"86
7	越川 堅太	神大	3'53"88
8	吉里 駿	駿河台	3'54"00

## 男子2部 5000m 決勝

1	Muthoni Muiru	創価大	13'43"20
2	Titus Wambua	武学大	13'52"32
3	Mogusu Titus	東国大	13'59"27

4	Workneh Derese	拓大	14'02"21
5	鈴木 祐希	神大	14'09"24
6	鈴木 壘人	青学大	14'09"45
7	小山 直城	東農大	14'10"57
8	工藤 有生	駒大	14'12"26
<hr/>			
45	近藤 秀一	東大	16'04"91

**男子2部 10000m 決勝**

1	Simon Kariuki	日薬大	28'00"66
2	Ledama Kisaisa	桜美大	28'21"61
3	Titus Wambua	武学大	28'28"91
4	鈴木 健吾	神大	28'40"61
5	Workneh Derese	拓大	28'45"07
6	橋詰 大慧	青学大	28'56"06
7	山藤 篤司	神大	29'00"30
8	浦野 雄平	國學大	29'08"68
<hr/>			
13	近藤 秀一	東大	29'16"49

**男子2部 ハーフマラソン 決勝**

1	Simon Kariuki	日薬大	1:02'38
2	下田 裕太	青学大	1:04'14
3	細谷 恭平	中学大	1:04'29
4	畔上 和弥	帝京大	1:04'53
5	大塚 倭	神大	1:04'54
6	市山 翼	中学大	1:05'28
7	大森 滯	中学大	1:05'40
8	片西 景	駒大	1:06'04
<hr/>			
	阿部 飛雄馬	東大	DQ*TO

**男子2部 110mH****予選(4組3着+4)****2組(-0.9)**

7	杉森 康平	東大	16.94
---	-------	----	-------

**決勝(+0.5)**

1	井口 貴文	立大	14"25
2	熊田 凌	東理大	14"28
3	屋宜 孝志	駿河大	14"33
4	山本 恭平	学習大	14"47

5	崎本 和誠	流経大	14"51
6	若山 陽	駿河大	14"64
7	幸正 健太郎	神大	14"69
8	柿原 仁一郎	駿河大	14"80

**男子2部 400mH****決勝**

1	藤井 琉成	大東大	52"18
2	鈴木 夢人	群大	52"78
3	須藤 健	群大	52"95
4	佐藤 杜登	駿河大	53"16
5	角野 拓	大東大	53"44
6	山本 恭平	学習大	53"83
7	吉田 慶次郎	駿河大	54"41
8	木村 翔	流経大	55"33

**男子2部 3000mSC****決勝**

1	荻野 太成	神大	8'51"16
2	田村 丈哉	帝京大	9'02"60
3	高橋 翔也	中学大	9'02"87
4	上土井 雅大	亜大	9'05"21
5	鈴木 正樹	東国大	9'06"89
6	米井 翔也	亜大	9'07"37
7	藤崎 真伍	流経大	9'09"20
8	古川 舜	亜大	9'10"73

**男子2部 10000mW 決勝**

1	坂崎 翔	平国大	42'53"94
2	中島 大和	平国大	42'59"55
3	滝沢 大賀	平国大	43'26"85
4	堀江 駿	東大	44'39"77
5	井本 太二	防大	44'45"88
6	及川 知大	神工大	45'56"69
7	棟重 賢治	東大	46'00"02
8	山中 龍徳	高経大	46'00"89
<hr/>			
	渡邊 成陽	東大	DQ*K2

## 男子2部4×100mR

## 予選(5組1着+3)

## 1組

3 東大 阿久津—聲高—河野—長久 41"27

## 決勝

1 ウェルネス大 田中—福谷—山田—中村 40"00  
 2 大東大 霧島—白石—須貝—田中 40"08  
 3 流経大 田中—仁上—斉藤—佐々木 40"45  
 4 東農大 西尾—石井—漣—山縣 40"55  
 5 作新大 桑子—吉澤—成田—前原 40"83  
 6 東理大 熊田—真田—世古—海老原 41"15  
 駿河大 川本—清水—下里—小林 DNF  
 立大 重住—川上—坂井—大矢 DQ\*R3

## 男子2部4×400mR

## 予選(5組1着+3)

## 5組

4 東大 小嶋—河野—松田—長久 3'19"66

## 決勝

1 駿河大 工藤—中川—伏見—若林 3'07"40  
 2 大東大 富岡—山崎—須貝—吉野 3'09"14  
 3 東農大 西田—大坪—坏—眞壁 3'11"14  
 4 東経大 関口—山田—吉田—星野 3'11"36  
 5 立大 酒井—飯嶋—木越—坂井 3'12"49  
 6 作新大 山岸—小林—坂本—佐藤 3'13"29  
 7 青学大 藤岡—中村—高田—齋藤 3'13"57  
 8 群大 須藤—北爪—中村—鈴木 3'16"12

## 男子2部走幅跳 決勝

1 吉澤 尚哉 作新大 7m36(-0.7)  
 2 海老沼 勝輝 駿河大 7m19(+0.7)  
 3 木下 秀明 東大 7m16(-0.3)  
 4 小口 智毅 一橋大 7m10(-0.5)  
 5 久保 源輝 横国大 7m03(-1.2)  
 6 外池 康裕 首都大 7m01(+0.3)  
 7 伊豫田 祐輔 玉川大 7m01(+0.2)  
 8 齊藤 聖人 明海大 7m00(-0.3)

## 男子2部走高跳 決勝

1 久保田 征孝 上武大 2m06  
 2 鈴木 海平 東経大 2m03  
 3 鳥海 貴之 流経大 2m03  
 4 兼山 直希 人科大 2m00  
 4 長沼 輝知 神大 2m00  
 6 若杉 颯一郎 東経大 2m00  
 7 能手 宣拓 平国大 2m00  
 8 中山 裕偉 作新大 1m95  
 8 滝原 幸紀 神大 1m95  
 8 舘野 文裕 上武大 1m95  
 8 杉本 丞 立大 1m95  
 8 齊藤 一真 医歯大 1m95  
 8 小森 翔太 宇大 1m95

## 男子2部棒高跳 決勝

1 石橋 和也 清和大 5m00  
 2 篠塚 祥喜 清和大 4m90  
 2 高橋 一斗 清和大 4m90  
 4 三宅 功朔 東大 4m80  
 5 高須 莉喜 横国大 4m70  
 6 岩川 天羽 千商大 4m40  
 7 小谷野 陽平 茨大 4m40  
 8 深澤 広大 東経大 4m30

## 男子2部三段跳 決勝

1 伴 拓朗 聖学大 15m46(-1.2)  
 2 齋藤 勇太 作新大 15m33(-0.5)  
 3 中谷 靖宏 大東大 15m25(-0.3)  
 4 横森 友朗 山梨大 15m17(-0.8)  
 5 丸橋 祐希 群大 15m11(-1.4)  
 6 内澤 駿 流経大 15m09(-1.6)  
 7 外池 康裕 首都大 14m89(-0.8)  
 8 木下 秀明 東大 14m88(-0.3)

## 男子2部砲丸投 決勝

1 石井 光一 ウェルネス大 15m85  
 2 阪本 祐弥 流経大 14m61  
 3 北亦 将成 流経大 13m60  
 4 小西 風生 駿河大 13m51

5	岩井 幸暉	上武大	13m33
6	林 優太	平国大	13m27
7	米森 心悟	流経大	13m26
8	遠藤 誠也	文教大	13m21
29	佐竹 俊哉	東大	10m19

**男子2部円盤投 決勝**

1	植田 紗綾人	流経大	43m80
2	石井 光一	流経大	43m02
3	矢口 幸平	埼大	42m76
4	柿崎 雄斗	流経大	40m45
5	小西 風生	駿河大	40m37
6	船越 龍馬	ウエルネス大	39m92
7	品田 功稀	芝工大	39m02
8	小林 駿祐	聖学大	38m45
24	土井 雅人	東大	28m67

**男子2部やり投 決勝**

1	中浦 凌馬	茨大	71m93
2	矢部 尚史	一橋大	65m80
3	中村 雄二	尚学大	64m40
4	小川 健太	東経大	62m92
5	佐藤 悠樹	東経大	62m22
6	青木 和真	上武大	61m48
7	河内 敦登	ウエルネス大	61m23
8	森 将弘	流経大	61m10

**男子2部ハンマー投 決勝**

1	北亦 将成	流経大	60m03
2	大島 崇弘	流経大	55m30
3	山崎 修太	白鷗大	53m79
4	印田 怜司	流経大	52m93
5	柴野比 ホセ	上武大	52m35
6	石島 和弥	上武大	49m28
7	坂下 晃太郎	日工大	46m24
8	森 輝竜	高経大	44m99

**男子2部十種競技 決勝**

1	田中 寿季	大東大	6541
2	福島 優	流経大	6394

3	佐藤 智治	千葉大	6272
4	松浦 岳	立大	6075
5	鈴木 琢丸	千商大	6062
6	平井 友梧	学習大	6040
7	川畑 夏唯	千商大	6032
8	鈴木 開斗	大東大	5935

14	寶田 雅治	東大	5509
100m	11"71(-0.9)		709
走幅跳	5m91(+0.7)		567
砲丸投	8m21		379
走高跳	1m65		504
400m	51"20		760
110mH	16"07(+2.3)		725
円盤投	20m13		274
棒高跳	3m30		431
やり投	39m70		438
1500m	4'33"43		722

**総合得点**

1位:	流通経済大学	90点
2位:	大東文化大学	79点
3位:	駿河台大学	72点
4位:	作新学院大学	37.16点
5位:	日本ウエルネススポーツ大学	37点
6位:	神奈川大学	31.66点
15位:	東京大学	19点

**女子1部800m****予選(4組3着+4)****3組**

3	高石 涼香	東大	2'13"85
---	-------	----	---------

**準決勝(2組3着+2)**

7	高石 涼香	東大	2'15"85
---	-------	----	---------

**決勝**

1	北村 夢	日体大	2'05"73
2	池崎 愛里	順大	2'07"41
3	卜部 蘭	東学大	2'07"93
4	熊谷 彩音	日体大	2'08"00

5	犬童 純怜	日体大	2'11"73
6	戸谷 温海	山学大	2'12"28
7	白鳥 さゆり	順大	2'12"81
8	奥田 静香	青学大	2'16"02

**女子1部 400mH****予選(5組 2着+6)**

5	坪浦 諒子	東大	1'03"14
---	-------	----	---------

**決勝**

1	小山 佳奈	早大	59"16
2	三藤 祐梨子	青学大	59"69
3	清水 友紀	慶大	1'00"40
4	平原 杏華	東学大	1'00"71
5	伊藤 明子	筑波大	1'00"89
6	香坂 さゆり	立大	1'01"35
7	ガラサ-ズ 圭奈ウイ'イ'ン	慶大	1'01"48
8	松岡 奈央	青学大	1'01"60

**男子3部 100m 決勝**

1	和田 佑太	慶大院	10"85(-0.5)
2	黒澤 光	大東院	10"92(-1.8)
3	久保田 恭弘	順大院	10"98(-0.5)
5	藤田 旭洋	東大院	11"06(-1.8)
8	竹井 尚也	東大院	11"25(-0.5)

**男子3部 200m 決勝**

1	藤田 旭洋	東大院	21"45
2	妻木 泰斗	東工院	21"58
3	和田 佑太	慶大院	21"58(+1.2)
6	稲葉 啓人	東大院	21"81
9	小西 慶治	東大院	22"67(+1.2)

**男子3部 1500m 決勝**

1	野村 直己	慶大院	3'56"88
2	西菌 亘祐	農工院	3'58"77
3	福島 洋佑	東大院	4'09"19

**男子3部 3000mSC 決勝**

1	福島 洋佑	東大院	9'24"40
2	湊 省吾	首都院	9'33"85

**男子3部 10000mW 決勝**

1	佐藤 高嶺	筑波院	46'30"48
2	皿井 泰光	横国院	47'15"03
3	櫻井 悠也	東大院	49'23"83

**男子3部 三段跳 決勝**

1	小池 輝	順大院	13m95(-1.4)
2	須藤 海	東大院	13m87(-0.8)
3	金子 翼	東学院	13m85(-0.2)

**男子3部ハンマー投 決勝**

1	根本 太樹	流経院	68m01
2	奥村 匡由	流経院	66m06
3	松原 拓矢	日大院	63m02
6	鍵本 直人	東大院	42m18

**5. 自己記録更新者一覧**4/22.23 第255回日本体育大学長距離競技会

800m	伊藤龍一郎(3年)	1'59"40
800m	岸康太(4年)	2'01"05
800m	高石涼香(3年)	2'12"52
1500m	森本祥之(2年)	4'22"60
1500m	堀越美菜(3年)	5'37"55
5000m	長田将(3年)	15'59"92
5000m	油井星羅(3年)	16'19"63
5000m	古賀淳平(2年)	16'24"06
5000m	長谷川祐輝(3年)	16'43"41
10000m	松本啓岐(4年)	31'21"69

4/29 第99回日本体育大学競技会

400m	長久将(4年)	51"23
------	---------	-------

5/6 第7回M×Kディスタンスチャレンジ

5000m	清水洗一(4年)	16'38"98
-------	----------	----------

5/6.7 第100回日本体育大学競技会

400m	伊藤康裕(2年)	51"37
800m	遠藤幸生(4年)	2'10"10
棒高跳	寶田雅治(4年)	3m60

5/6.7 第2回国土舘大学競技会

100m	今井樹宏(4年)	11"55(+0.4)
200m	今井樹宏(4年)	23"78(+0.0)
砲丸投	村井輝(2年)	9m54
やり投	村井輝(2年)	38m70

5/7 第1回日本大学競技会

100m	渡辺敬博(3年)	11"23(+1.7)
100m	長久将(4年)	11"26(+1.7)
100m	伊藤康裕(2年)	11"45(+1.0)
200m	長久将(4年)	22"75(+1.1)
110mH	中島盛喜(4年)	16"61(+1.7)
走幅跳	平井智史(2年)	6m53(+0.2)
三段跳	平木基人(3年)	14m04(+0.9)
砲丸投	加藤輝仁(4年)	10m47
円盤投	山之内良太(4年)	28m49

5/20 第63回平成国際大学長距離競技会

3000mSC	栗山一輝(2年)	9'52"04
3000mSC	古賀淳平(2年)	10'42"52

5/26.27.28.29 第96回関東学生陸上競技対校選手権大会

200m	河野太郎(4年)	21"61(+0.6)
400m	寶田雅治(4年)	51"20
10000m	近藤秀一(3年)	29'16"49
10000mW	堀江駿(3年)	44'39"77
砲丸投	寶田雅治(4年)	8m21
十種	寶田雅治(4年)	5509点

6/3.4 第256回日本体育大学長距離競技会

800m	早川航平(4年)	1'57"45
800m	伊藤龍一郎(3年)	1'58"47
1500m	渡部慎也(2年)	4'09"47

6/4 第1回慶應大学競技会

200m	早川航平(4年)	23"17(-0.5)
400m	坂口諒(3年)	51"60
3000mSC	古賀淳平(2年)	10'22"01

6/4 第2回日本大学競技会

200m	後藤裕瑛(4年)	22"95(-0.8)
------	----------	-------------

6/4 第3回国土舘大学競技会

5000m	松本啓岐(4年)	15'08"84
-------	----------	----------

**6. 2017年度 部内五傑**

(順位 氏名 (学年) タイム 日付)

**男子 100m**

1	河野太郎(4年)	10"96(+1.0)	5.7
2	阿久津大貴(2年)	11"13(+1.5)	5.7
3	渡辺敬博(3年)	11"23(+1.7)	5.7
4	村井輝(2年)	11"26(+0.7)	3.18
5	長久将(4年)	11"26(+1.7)	5.7

**男子 200m**

1	聲高健吾(1年)	21"58(+1.7)	5.27
2	河野太郎(4年)	21"61(+0.6)	5.27
3	長久将(4年)	22"75(+1.1)	5.7
4	後藤裕瑛(4年)	22"95(-0.8)	6.4
5	伊藤康裕(2年)	23"15(+0.5)	4.29

**男子 400m**

1	河野太郎(4年)	49"85	4.8
2	松田光陽(2年)	50"79	6.4
3	小嶋健太郎(3年)	51"01	5.6
4	寶田雅治(4年)	51"20	5.26
5	長久将(4年)	51"23	4.29

**男子 800m**

1	坂口諒(3年)	1'55"63	4.8
2	小野康介(2年)	1'56"10	4.8
3	早川航平(4年)	1'57"45	6.3
4	妹背雄太(4年)	1'57"48	4.30

5 伊藤龍一郎(3年) 1'58"47 6.3

**男子 1500m**

1 近藤秀一(3年) 3'53"75 4.8  
 2 妹背雄太(4年) 3'59"68 4.8  
 3 小野康介(2年) 4'09"10 3.19  
 4 渡部慎也(2年) 4'09"47 6.3  
 5 杉本直之(2年) 4'14"77 6.3

**男子 5000m**

1 近藤秀一(3年) 14'56"24 3.18  
 2 松本啓岐(4年) 15'08"84 6.4  
 3 阿部飛雄馬(2年) 15'12"38 4.23  
 4 栗山一輝(2年) 15'17"27 6.4  
 5 妹背雄太(4年) 15'47"42 4.23

**男子 10000m**

1 近藤秀一(3年) 29'16"49 5.25  
 2 阿部飛雄馬(2年) 31'12"74 4.22  
 3 松本啓岐(4年) 31'21"69 4.22  
 4 田村和也(4年) 32'43"71 4.22  
 5 須藤克誉(4年) 34'11"89 3.26

**男子 110mH**

1 寶田雅治(4年) 15"93(+0.8) 4.8  
 2 村井輝(2年) 16"03(+1.3) 4.8  
 3 中島盛喜(4年) 16"61(+1.7) 5.7  
 4 中尾幸志郎(2年) 16"62(-1.8) 6.4  
 5 杉森康平(8年) 16"94(-0.9) 5.25

**男子 400mH**

1 松田光陽(2年) 57"41 5.7  
 2 中尾幸志郎(2年) 60"08 6.4

**男子 3000mSC**

1 栗山一輝(2年) 9'52"04 5.20  
 2 肱岡佑(3年) 9'52"18 3.25  
 3 妹背雄太(4年) 9'52"76 3.25  
 4 遠藤正陽(2年) 10'17"11 3.25  
 5 古賀淳平(2年) 10'22"01 6.4

**男子 10000mW**

1 堀江駿(3年) 44'39"77 5.27  
 2 棟重賢治(4年) 46'00"02 5.27

**男子 4×100mR**

1 阿久津(2)-聲高(1)-河野(4)-長久(4) 41"27 5.25  
 2 影山(2)-田口(3)-河野(4)-長久(4) 42"47 4.8  
 3 影山(2)-平岡(4)-平木(3)-阿久津(2) 43"76 3.26

**男子 4×400mR**

1 小嶋(3)-河野(4)-松田(2)-長久(4) 3'19"22 5.27  
 2 河野(4)-早川(4)-長久(4)-伊藤(2) 3'32"58 4.8

**男子走幅跳**

1 木下秀明(3年) 7m18(-1.5) 4.8  
 2 藤原暉(2年) 6m79(-0.6) 4.8  
 3 草野恒平(4年) 6m72(+0.9) 5.7  
 4 村井輝(2年) 6m57(+0.6) 5.6  
 5 平井智史(2年) 6m53(+0.2) 5.7

**男子三段跳**

1 木下秀明(3年) 14m88(-0.3) 5.27  
 2 平木基人(3年) 14m04(+0.9) 5.7  
 3 毛利冬悟(3年) 13m59(+0.6) 3.18  
 4 赤塚智弥(2年) 13m43(-0.9) 3.25  
 5 片渕大成(2年) 12m01(-0.6) 3.25

**男子走高跳**

1 赤塚智弥(2年) 1m80 4.8  
 2 寶田雅治(4年) 1m65 3.18  
 3 村井輝(2年) 1m60 5.6

**男子棒高跳**

1 三宅功朔(2年) 4m80 5.6  
 2 寶田雅治(4年) 3m60 5.6  
 3 村井輝(2年) 3m30 5.6

**男子砲丸投**

1 佐竹俊哉(3年) 10m76 4.8  
 2 土井雅人(4年) 10m75 5.4

3 加藤輝仁(4年)	10m47	5.7
4 村井輝(2年)	9m54	5.6
5 寶田雅治(4年)	8m21	5.25

**男子円盤投**

1 佐竹俊哉(3年)	31m80	4.8
2 土井雅人(4年)	30m46	4.8
3 山之内良太(4年)	28m49	5.7
4 寶田雅治(4年)	23m86	3.19
5 村井輝(2年)	21m84	3.19

**男子やり投**

1 八木澤光大(3年)	47m85	5.7
2 寶田雅治(4年)	41m36	3.19
3 村井輝(2年)	38m70	5.7

**女子 100m**

1 内山咲良(2年)	13"03(+1.0)	4.8
------------	-------------	-----

**女子 800m**

1 高石涼香(2年)	2'12"52	4.22
2 荒木玲(2年)	2'34"02	4.22

**女子 1500m**

1 高石涼香(3年)	4'47"83	3.26
2 藤原ゆか(3年)	5'07"87	6.3
3 荒木玲(3年)	5'21"41	3.26
4 堀越美菜(3年)	5'37"55	4.22

**女子 5000m**

1 堀越美菜(3年)	21'09"97	3.18
------------	----------	------

**女子 400mH**

1 坪浦諒子(4年)	63"14	5.27
------------	-------	------

**女子走幅跳**

1 内山咲良(2年)	5m38(-0.8)	4.8
------------	------------	-----

**女子三段跳**

1 内山咲良(2年)	11m24(-0.2)	3.18
------------	-------------	------

**7. 2017年度 東大記録更新者一覧**

(種目 氏名 (学年) タイム 日付)

800m	高石涼香(3年)	2'12"52	4.22
10000m	近藤秀一(3年)	29'16"49	5.25
三段跳	内山咲良(2年)	11m24(-0.2)	3.18

## 8. 主務より

### 8.1 応援OB・OG紹介

5/25～5/28に日産スタジアムで行われました第96回関東学生陸上競技選手権大会に際し、応援に駆けつけてくださいましたOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

昭和40年卒 渡部一之  
 昭和51年卒 田上静之  
 昭和54年卒 一色聡  
 昭和54年卒 中谷敬二  
 昭和58年卒 浅野浩二  
 昭和58年卒 八田秀雄  
 昭和61年卒 藤村陽  
 昭和62年卒 西村裕之  
 昭和63年卒 井上裕司  
 昭和63年卒 寺田秋夫  
 平成3年卒 小野満  
 平成3年卒 馬場勝也  
 平成5年卒 桜井亮太  
 平成7年卒 難波聡  
 平成11年卒 山下大輔  
 平成13年卒 本田達也  
 平成14年卒 辻拓一郎  
 平成14年卒 本田牧子  
 平成15年卒 小山剛史  
 平成15年卒 田辺匡亮  
 平成15年卒 山崎智裕  
 平成16年卒 熊丸拓郎  
 平成17年卒 春木洋輔  
 平成17年卒 藤田靖浩  
 平成18年卒 吉田和敬  
 平成19年卒 木村栄三  
 平成20年卒 持永新  
 平成22年卒 山口健介  
 平成23年卒 木内久雄  
 平成23年卒 近藤堯之  
 平成23年卒 園部竜也  
 平成23年卒 西田昂広

平成23年卒 渡邊拓也  
 平成25年卒 大内田弘太朗  
 平成26年卒 鈴木裕也  
 平成26年卒 高森一  
 平成26年卒 松野智成  
 平成26年卒 梁瀬将史  
 平成27年卒 岡島弘明  
 平成27年卒 横田絢  
 平成28年卒 渥美祐次郎  
 平成28年卒 小西慶治  
 平成28年卒 小南直翔  
 平成28年卒 佐藤駿  
 平成28年卒 鈴木敦士  
 平成29年卒 阿部龍太郎  
 平成29年卒 稲葉啓人  
 平成29年卒 岩淵康太  
 平成29年卒 鍵本直人  
 平成29年卒 加来宗一郎  
 平成29年卒 加藤騎貴  
 平成29年卒 軽部智  
 平成29年卒 河原未来  
 平成29年卒 神田公平  
 平成29年卒 坂出竜弥  
 平成29年卒 櫻井悠也  
 平成29年卒 戸田賢希  
 平成29年卒 深澤竜太  
 平成29年卒 福島洋佑  
 平成29年卒 福永大輔  
 平成29年卒 藤田旭洋  
 平成29年卒 松下周平  
 平成29年卒 松本大樹  
 平成29年卒 箕島頌  
 平成29年卒 森本淳基

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、現役部員一同心より御礼申し上げます。

## 8.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

6.9(金)～6.11(日)	個人選手権@平塚
6.17(土)	国公立戦@鴻巣
7.1(土)	四大戦@大井
7.8(土)	OB戦@駒場
7.29(土)～7.30(日)	七大戦@知多、瑞穂
9.8(金)～9.10(日)	全日本 I.C. @福井
9.30(土)	京大戦@駒場
10.14(土)	箱根駅伝予選会@立川

※一橋戦は日程が確定していません。

## 8.3 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二	
TEL	: 03-5370-9370
Mail	: Seiji_Saito@suntory.co.jp
学生主務：後藤裕瑛	
〒240-0046 神奈川県横浜市保土ヶ谷区仏向西	
22-3-914	
TEL	: 070-6573-6935
Mail	: shumu@uttf.org
学生主務補：富原健太	
Mail	: uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG 向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

学生主務 後藤裕瑛

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の須藤までお送り下さい。

部便り主任 須藤克誉

(Mail: uttfbdyri2017@gmail.com)